

国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を
一体的に充実させた授業実践の工夫

1 主題設定の理由

本校では、令和5年度、令和6年度に国語を研究し、自分の考えを互いに共有し理解を深めたり、文章を読んで感じたことや考えたことを友達に伝えたりする指導に重点をおくなど、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力である国語力の育成を図り、豊かに表現できる児童の育成を目指してきた。それを受けて令和7年度では、学校研究主題を「未来を生き抜く上西っ子の育成」、副題を～身に付けた国語力を他教科でも生かし、自ら学びをつなぐことができる児童の育成～とし、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善に努めている。そして、国語科の学習を通じて身に付けた「国語力」を活用できるように指導すること、また、その力を他教科でも発揮できるよう、意図的・計画的に教科横断的な指導を行ってきた。このような学習を通して、児童は様々な表現方法を学び、自分の考えを根拠を明らかにしながら表現することができるようになってきた。一方、令和7年度「全国学力・学習状況調査」の自校採点の結果から、必要な情報を読み取ったり、聞かれていることに対して的確に答えたりすることに課題があることが分かった。特に2年生では、「教研式NRT標準学力検査」の結果から、重要な語や人物の行動をとらえながら読んだり、文や文章を正しく書いたりすることに課題があることも分かった。これらのことから、自分の考えを単に表現するのではなく、目的を理解し、場面や相手に応じて表現する力を身に付けていく必要があると考えた。

そこで本実践では「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業の工夫に重点を置いて取り組む。「個別最適な学び」では、自分の設定した課題について自分に合った方法で学習することで、知識を深め技能を高めていく。「協働的な学び」では、他者との交流を通して考えを共有したり比較したりすることにより、自分の考えを広げたり深めたりしていく。これらの学習を通して、目的を理解し場面や相手に応じて表現できる児童の資質・能力の育成を図ることができると考え、本主題を設定した。

2 授業実践

(1) 単元名 本で調べてしょうかいしよう

教材名 『生きもののクイズ』でしらせよう(教育出版：2年)

(2) 児童について

本学級の児童はこれまでの国語の授業で、「すみれとあり」の単元で、「なにが」「どうする」という基本的な文章構成をおさえ、すみれがありに種を運んでもらう様子を読み取る学習を行った。また、「かんさつ発見カード」の学習では、生活科と繋げながら、ミニトマトを観察して分かったことを短い文でメモにまとめ、メモと見比べながら文章化する学習を行った。これらの学習を通して、簡単な文章構成を理解したり、様子が伝わるように詳しく書いたりすることができるようになった児童が増えて

きた。しかし、的確にメモを取ることが難しい児童や、書くこと自体に苦手意識をもち、なかなか書き始められない児童もいる。

（３）教材について

本単元では、自分の伝えたいことを、資料を活用して調べ、クイズ作りを行う。クイズ作りを通して「問い」と「答え」の関係や、「何が」「どうする」の対応を理解して書くことをねらいとしている。学習を進めるにあたり、既習単元『すみれとあり』の学習や生活科の学習と効果的に関連させていく。図書資料を活用して情報を集める際には、科学の読み物や図鑑と出会わせ、その使い方を指導し、今後の学習で活用できるようにしていく。また、クイズを作ったり友達と読み合って感想を伝えたりする活動を通して、伝えたいことを明確に表現する力を身に付けていく。

（４）指導について

本単元の指導に当たっては、小学校学習指導要領解説国語編〔第１学年及び第２学年〕２内容「Ｂ書くこと」の（１）指導事項「Ａ 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。」を重点的に指導する。身のまわりの生き物について調べ、「生きものクイズ」を作って友達に知らせる学習活動を行う。友達により良く知らせるためには、知らせる内容を明確にしなければならない。これまでの生活経験を想起させ、その中から伝えたいことを選択し、調べたり書いたりする中で、伝えたいことを明確にしていく。「友達に知らせる」という目的意識をもたせ、グループの友達と協働的にクイズ作成に取り組み、より良いものを作り上げられるようにしたい。また、自分の驚いたことや感心したことを、クイズを行い友達に伝える活動を通して、書くことが苦手な児童でも意欲的に取り組めるようにしたい。メモに書く際には視点を明確にし、個別最適な方法で調べながら目的に合わせて情報を選択できるようにしたい。そして、友達とクイズを出し合い感想を交流することによって、児童に満足感や達成感を味わわせ、もっとやりたいという意欲を高められるようにしたい。

（５）単元の目標

○共通、相違、事柄の順序など、情報と情報の関係について理解することができる。

〈知識及び技能〉（２）ア

○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉Ｂ（１）ア

○言葉がもつ良さを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

（６）本単元における言語活動

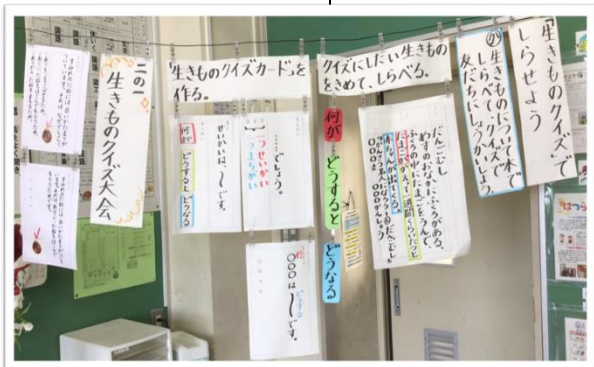
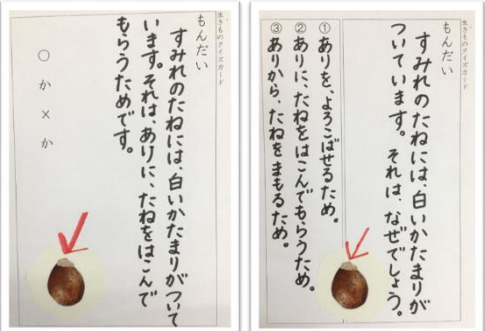
身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。
(関連：言語活動例ア)


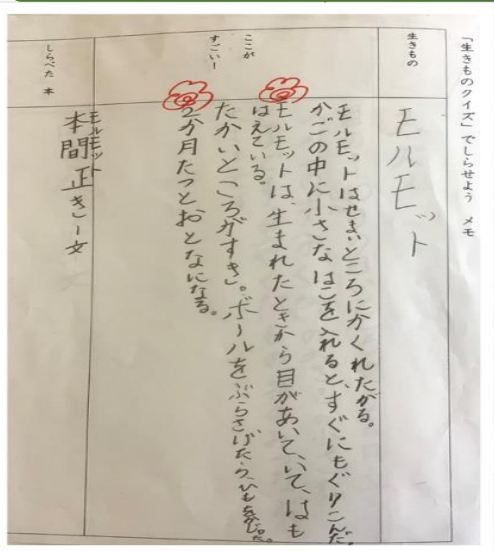

(7) 単元の評価規準

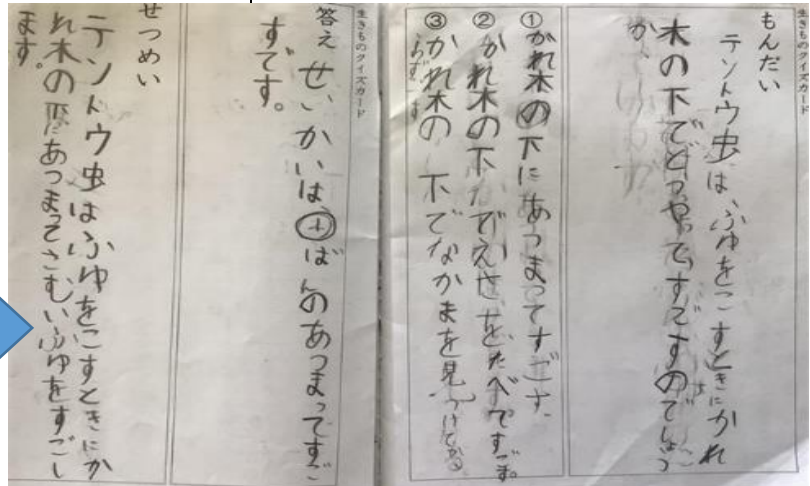
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	① 「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	① 進んでクイズの内容に対する意見や、説明を読んでどう感じたか相手に伝わるように、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。

(8) 具体的な内容や方策

ア 国語科単元学習を通した一体化（全6時間扱い）

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<p>○単元の学習課題を確認し、学習を見通してゴールを確認する。</p> 	<p>○単元の学習課題</p>	<p>○学習の流れや、「生きものクイズ」を作って友達と読み合うというゴールを明確にし、児童が意欲をもって取り組めるようにする。</p> <p>○これまでに触れ合ったり学習したりした生き物のことを想起させ、自分が一番伝えたい生き物を選択できるようにする。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】</p> <p><u>発言・ワークシート・振り返り</u></p> <p>・知っている生き物を想起し、自分が一番伝えたい生き物を選択しようとしているか確認する。</p> 
	<p>○教材を読み、知っている生き物を想起しながら、クイズの題材を決める。</p> <p>○題材決定の仕方</p> <p>自分の興味関心に合わせて題材を決めることで、学習の個性化を図った。</p> <p>個別最適な学び</p>		<p>既習単元と関連させた</p>
2	<p>○図書室で題材にした生き物について書かれた本を探す。</p> <p>○本を読み、クイズにしたい内容をメモする。</p> <p>個別最適な学び</p>	<p>○目的の本の探し方</p> <p>○メモの取り方</p>	<p>○「本でしらべよう」での学習内容を想起させ、目的の本が効率よく探せるようにする。</p> <p>○自分が驚いたことや初めて知ったことなどをメモに書くようにする。</p> <p>○「何が」「どうすると」「どうなる」の文章構成を意識させ、簡潔に書くようにする。</p> <p>○メモは複数書かせ、自分の一番伝えたいことを選択して出題できるようにする。</p>

		自分の力に合わせてメモの枚数を調整することで、学習の個性化を図った。		【知識・技能①】 発言・メモ・振り返り ・図書資料から必要な情報を選択し、文章構成を意識しながら簡潔にメモを書いているか確認する。	
3 ○同じ生き物を選んだグループでメモを確認しあい、「生きものクイズ」に書く内容を考える。		○クイズ内容の説明の書き方		○みんながあまり知らないようなこと、答えを聞くと驚いたり感心したりするような内容がクイズに適していることを伝え、前時で書いたメモの中から適した題材を選択するよう促す。 ○同じ生き物を選んだグループで確認し合うことによって、情報を確かなものにしたり、大事なことを落とさないように書いたりすることができるようにする。	
協働的な学び					
					
児童が選んだ「調べてみたい生き物」を集約して10グループに分けた。児童の思いを重視してグルーピングしたところ、グループによって進捗具合も違っていた。					
		ハムスターグループ みんな違うクイズになった。 ↓ 学力上位の児童が題材を複数提案し、それぞれが違うクイズになるよう調整していた。		クジラグループ みんな同じクイズになった。 ↓ 学力上位の児童が紹介した題材を皆が気に入る、児童の強い思いから同じクイズになっていた。	
		ネコグループ クイズが作れなかった。 ↓ 学力低位の児童が集中し、題材をうまく集めることができなかった。 ▲支援方法に課題			
4 ○「もんだい」と「答え」その「せつめい」を対応させながら、「生きものクイズ」の下書きを書く。		○「もんだい」と「答え」その「せつめい」の書き方		○「三たぐクイズ」「〇×クイズ」の形式を例示し、自分のクイズ内容に合った問題を作成できるようにする。 ○「すみれとあり」の学習内容を想起させ、「せつめい」は、「何が」「どうすると」「どうなる」の文章構成で書けるようにする。	
個別最適な学び					
自分の力に合ったクイズ形式を選択させることで、指導の個別化を図った。					



○同じ生き物を選んだグループでクイズを出し合い、より良いクイズに仕上げる。

○クイズ内容の検討の仕方

○「もんだい」と「答え」その「せつめい」は対応しているか、「せつめい」は「何が」「どうすると」「どうなる」の文章構成で書けているかを確認し合えるようにする。

協働的な学び

○読み返す視点

読みかえしのポイント

作ったクイズを読んで、たしかめよう。

「もんだい」と「答え」は、みじかく書けているか。

「もんだい」と「答え」のつながりは、あっているか。

「せつめい」は、「何が」「どうなる」と「どうする」に気をつけて、くわしく書いているか。

わかりにくい言葉はないか。

ならったかん字をつかって、ていねいに書いているか。

たしかめること

【知識・技能①】

下書き・振り返り

・「もんだい」と「答え」その「せつめい」を対応させ、簡潔で分かりやすいクイズになるよう工夫しているか確認する。

【思考・判断・表現①】

発言・下書き・振り返り

・文章構成を意識しながら、伝えたいことを明確にして書いているか確認する。

5

○「もんだい」と「答え」その「せつめい」を対応させながら、「生きものクイズ」の清書をする。

○「生きものクイズ」の書き方

自分に合ったクイズを作ること、指導の個別化を図る。

個別最適な学び

○同じ生き物を選んだグループでクイズを読み合い、感想を伝え合う。

○伝え合う視点

協働的な学び

○誤字脱字に注意させ、見やすく分かりやすいクイズが書けるようにする。

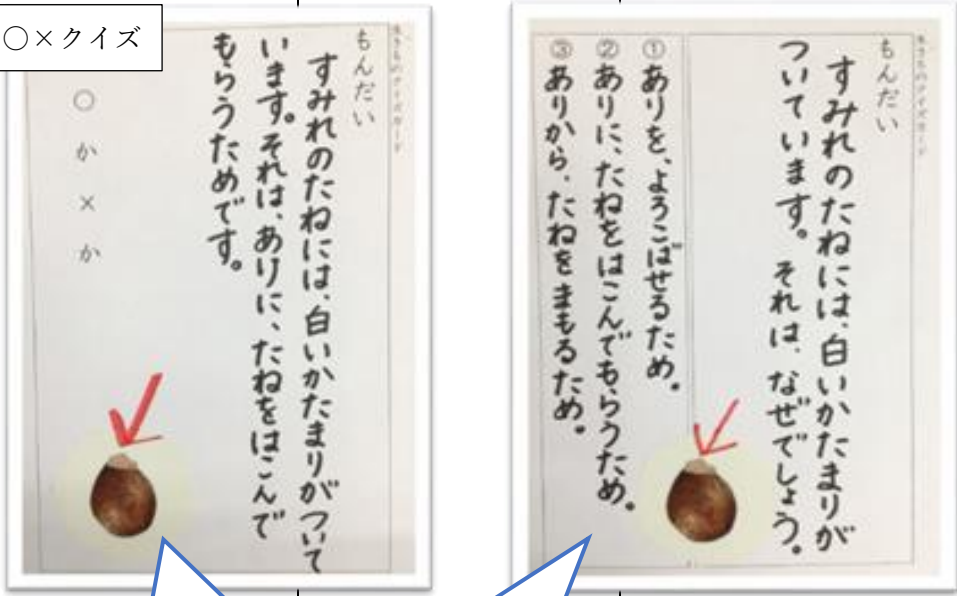
○友達のカイズの良いところを伝え合い、次時のクイズ大会で自信をもって出題できるようにする。


【主体的に学習に取り組む態度①】

発言・振り返り

・自分と友達のカイズを比べ、良いところや改善点を積極的に見つけようとしているか確認する。

イ 1時間の授業を通した一体化（本時4/6時間）

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 学習内容の確認		○前時を振り返り、メモの内容を確認する。	5
だれにでもわかりやすい、生きもののクイズをつくろう。			
2 「もんだい」と「答え」その「せつめい」を対応させながら、「生きもののクイズ」の下書きを書く。	○「もんだい」と「答え」その「せつめい」の書き方 ・「三たくクイズ」「○×クイズ」の形式 ・「何が」「どうすると」「どうなる」の文章構成	○「三たくクイズ」「○×クイズ」の形式を例示し、自分のクイズ内容にあった問題を作成できるようにする。 ○「すみれとあり」の学習内容を想起させ、「せつめい」は、「何が」「どうすると」「どうなる」の文章構成で書かせる。	20
個別最適な学び		三択クイズ	
<div>○×クイズ</div>  <div>○×クイズは、選択肢を考えなくてよいので、苦手な人におすすめです。</div> <div>三択クイズは選択肢を考える必要があり少し難しいけれど、その分わくわくするクイズができます。</div> <div>二つのクイズ形式を例示し、自分に合った形式を選択させることによって、指導の個別化を図った。</div>			
3 同じ生き物を選んだグループでクイズを出し合い、より良いクイズに仕上げる。	○クイズ内容の検討の仕方 ○読み返す視点	○「もんだい」と「答え」その「せつめい」は対応しているか、「せつめい」は「何が」「どうすると」「どうなる」の文章構成で書いているかを確認し合えるようにする。	15

<div>協働的な学び</div>  <div> <p>【児童から多く意見が出た読み返す視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題」と「答え」は短く書けているか。 ・分かりにくい言葉はないか。 <p>【あまり意見が出なかった読み返す視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題」と「答え」のつながりはあっているか。 </div>		<p>【知識・技能①】 下書き・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もんだい」と「答え」その「せつめい」を対応させ、簡潔で分かりやすいクイズになるよう工夫しているか確認する。 <p>【思考・判断・表現①】 発言・下書き・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章構成を意識しながら、伝えたいことを明確にして書いているか確認する。 	5
4 本時のまとめと振り返りをする。	○「もんだい」と「答え」その「せつめい」が対応していること	○分かりやすいクイズにするためには、どのようなことが必要なのか振り返らせる。	

3 成果（○）と今後の課題（△）

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させたことで、個々に調べて分かったことを持ち寄り、共有することができた。児童は、友達の調べたことも手掛かりにしながらより良いものを考え、学びを深めることができていた。
- 同じ生き物を選んだグループによる「協働的な学び」を位置付けたことによって、書くことを苦手としている児童が、グループの友達の考えを参考にし、書き始める手がかりとすることができていた。
- 同じ生き物を選んだグループ内の他の児童からのアドバイスを生かし、説明の言葉を追加したり、分かりにくい言葉を補う写真を貼ったりすることで、より分かりやすいクイズに改善されていた。
- 児童がクイズにする生き物を選択することで、児童の「伝えたい」という思いを引き出すことができ、主体的で対話的で深い学びにつながった。
- △同じ生き物を選んだグループでクイズの内容を検討させる時間を位置付け、協働的な学びを行うことで、それぞれものの見方や考え方を広げることができた。一方で、上位層の学びに広がりをもたせることができなかった。
- △自分が伝えたい生き物について「生きものクイズ」を作成して友達に伝える、というゴールを設定したが、相手意識が仲の良い友達に留まっていた。学年の友達や、1年生、家の人など、相手意識を広げて作成することで、表現の幅を広げたり作成意欲を更に向上させたりすることができると感じた。
- △ICTの活用については、タブレット端末で自分の紹介したい生き物の部分を撮影して見せたり、良いクイズを全体に共有したりするときに活用した。「協働的な学び」での話合いの内容をいつでも振り返ることができるよう、録音や録画機能を活用することで、より学習を深められると感じた。